

敷島北小学校 学校関係者評価書（後期）

平成26年1月29日（水）

敷島北小学校 学校関係者評価委員会作成

第2回 学校関係者評価委員会

実施日：平成26年1月29日（水）午後7時～

会場：敷島北小学校会議室

参加者：学校関係者評価委員 新津 健 保延昇一 雨宮清一 中込潤一
小田切保人 保延浩子 飯沼秀司 緑川和彦（佐野秀俊 欠席）
学校側 校長：廣瀬文武 教頭：河西慶仁 教務主任：松橋 勝

I 学校側から提案された内容

学校側教務主任から12月に実施した「教職員自己評価」「児童アンケート」及び「保護者アンケート」を分析し、まとめた以下の項目についての説明を行った。

(1) 説明の概要

○前回との比較

①「自己評価」（教職員アンケート）結果から

I 学校教育目標・学校経営について

学校経営方針に基づいて教育活動が進められてきているといえる。

「Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価・検証)、Action(改善)」のサイクルでの教育活動については、多忙な日々の実践のなかで、常にそれを意識して実践をしていくのは、なかなか難しい現状がある。

II 学校運営について

適切に学校運営が行われているといえる。

その中で、「危機管理マニュアルの理解」や「校務分掌の機能」では、A評価よりB評価が多い値を示している。

III 学習指導について

職員全員がねらいとすることを同一にししながら研修を進め、2学期に全学級で公開授業参観を行い、その成果をご覧いただいた。

また、児童が主体的に取り組む学習を意図しながら、基礎・基本の定着を図る学習指導を行ってきた。

IV 生徒指導について

全体的により良好な評価に推移してきており、これは、毎月行う生徒指導校内委員会で職員全員が共通理解を深めていることや、全校体制としての対応ができていることを示しているといえる。

V 地域との連携について

地域人材の活用については、学年ごとの学習活動による違いがあるため、大幅な改善が難しい面がある。

学校からお便りを発行するとともにホームページをこまめに更新し、広く情報発信をしている。

VI 学校の特色に関して

かけ足や読書の取り組みが、朝の活動として定着しており、児童の自発的な姿も見られる。児童会本部や各委員会が行うイベントや取り組みに積極的に児童が参加している。

②「児童アンケート結果（全体の結果）」から

- 1 学校は楽しいですか。
- 2 クラス(学年)に仲の良い友達がありますか。
 - ・ 1と2の項目の「D いいえ」の回答が0人になり、学校生活を良好に送れているといえる。
- 3 こまったことがあったら、相談できる友達がありますか。
 - ・ 「いない」が2名いるが、前回とは異なる児童である。
- 4 人がこまっているときは、進んで助けていますか。
 - ・ 項目4は、「A すすんで助けている」と「C あまり助けていない」がともに減り、「B 助けている」が増えた。積極的とはいかないまでも助ける姿勢はあるといえる。
- 5 学校の授業は楽しいですか。
- 6 先生はよく勉強を教えてくださいますか。
- 7 算数の授業の内容はわかりますか。
 - ・ 項目5は、「D 楽しくない」が5人から2人に減って、「A とても楽しい」「B 楽しい」が95%になった。6・7の項目では、「D」の回答が0人になり、全体的に「A」「B」というよい回答が増えている。
- 8 授業(勉強)でわからないことがあったら、先生に聞いていますか。
- 9 こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。
 - ・ 先生との関わりについては、「A」の回答が若干減り、「D」の回答が増えている。
- 10 授業中に質問や意見を言っていますか。
 - ・ 率先して発言をするという回答は減ったものの、発言に消極的な回答も減っており、発言はそこそこしているという様子がみられる。
- 11 宿題を忘れずにしていますか。
- 12 月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。
 - ・ 家庭での学習状況は、8割以上は「A いつもしている・B だいたいしている」と良好な回答している一方で、「していない」傾向のある児童も一定数いる。
- 13 家の人と学校での様子を話していますか。
 - ・ 「話をしている」児童が増え、「していない」児童が減少している。
- 14 月曜日から金曜日までは、何時くらいに寝ますか。
 - ・ 就寝時間が全体的に少しずつ遅くなっている傾向が見られる。
- 15 今住んでいる地域の行事に参加していますか。
 - ・ 大きな変化なく、前回同様に8割以上は参加していると回答している。
- 16 朝ごはんを食べて登校していますか。
 - ・ 「食べていない」が0人になった。
- 17 地域の人と出会ったらあいさつをしていますか。
 - ・ よくしている傾向が続いている。
- 18 月曜日から金曜日までは、家や図書館などで一日あたりどのくらいの時間、読書を読みますか。
 - ・ 全体的に読書時間がやや短くなっている様子が見られる。
- 19 将来の夢や希望を持っていますか。
 - ・ 意識の持ち方には若干の変化はあるが、全体の傾向は変わっていない。
- 20 学校のきまりや約束ごとを守っていますか。
- 21 清掃活動をしっかりしていますか。
- 22 委員会活動にしっかり取り組んでいますか。

- ・20~22 の項目については、9割以上ができていますと回答しており、「清掃活動」と「委員会活動」は前回同様に「D していない」が0%という回答だった。

【以下 学校オリジナル設問】

- 24 本を読むことが好きですか。
- 25 親子で本を読むことがありますか。
- ・前回とほぼ同様であるが、親子での読書はよくするという回答が減少した。
- 26 友達のためになると思うことは、進んでしますか。
- ・9割以上が「する・ときどきする」と答え、「しない」傾向の回答が減少した。

③「保護者アンケート結果」から（前年度及び市全体との比較）

- ・全体的に、市全体の保護者アンケートの結果とほぼ同様の傾向を示している。
- ・昨年度よりも、Aの評価の割合が多くなっている。
- ・「1 お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」「3 学校のたよりから教育活動の様子を知ることができる」「4 学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う」の項目は、市全体よりも肯定意見が多く、「1」「3」の項目は、昨年度よりも6ポイント以上多くなっている。
- ・「13 家庭学習」については、昨年度同様に過半数が「いつも・だいたいしている」で市よりも高い回答であるが、まだまだ「あまり・していない」が高い値を示している。
- ・「17 家庭での挨拶の指導」は、「A よく言っている」のが一番多く、市全体より良い回答が多かった。
- ・「25 親子での読書」は「A・B」の評価が昨年度より8ポイント増えて、過半数になった。

(2) 今後の方針（改善策）

①「自己評価」（教職員アンケート）結果から

- ・全ての項目で「ややそう思わない」「そう思わない」の回答がなく、良好な学校運営ができているといえる。これからも、その状態を維持していきたい。
- ・「危機管理マニュアルの理解」や「校務分掌の機能」などの「ややそう思う」が多かった項目については、現状を改めて検証しながら、改善できる方途を探っていく必要がある。

②「児童アンケート」結果から

- ・全体的に、AやBの良好な回答が増えており、こうした傾向を維持していきたい。
- ・先生との関わりについては、これからも一人一人の児童に細かく目を配りながら指導にあたることが大切であることを再確認したい。
- ・項目によっては、発達年齢による違いもあるので、その学年の特徴や違いを考慮しつつ、検討をしていく必要がある。

③「保護者アンケート」結果から

- ・家庭での学習については、これまで取り組んできている「家庭学習のてびき」などの自主学習への働きかけを、引き続き進めていく必要がある。
- ・「先生はよく勉強を教えてくださいますか。」に関する質問では、児童の8割が「よく教えてくれる」としているのに対して、保護者は2割にとどまっており、保護者の期待の高さを再認識して学習指導にあたっていきたい。
- ・アンケートの「C」「D」の評価について、その状況を分析し、児童の健全な成長に保護者と学校が一体となって取り組んでいかなければならない。

Ⅱ 協議された主な内容 評…評価委員 学…学校側

①教員の資質の向上について

評…以前から指摘されているが、PDC Aサイクルの評価で、「A」に達していないものは、学校体制の中でどのようにとらえているか。これから先の方向性を教員全体で捉えていることが望ましいが、自己評価で「A」に結びついていない部分をどう考えるか。

学…行事等の後に必ず評価をしているが、改善に結びつけるのは難しい面もある。教員が自己評価する際に、遠慮して「A」が付けづらい面もあるのかもしれない。また、短期的なサイクルの中では、改善が難しいと捉えて「B」をつけるなど、目標を高くもっていることも考えられる。

評…自主的な改善のプランが見つけれないのであれば、アドバイスなどをする必要があるのではないか。教員と管理職のコミュニケーションが取れていれば、フォローができるので、「A」評価となるように、自信をもって取り組んで欲しい。

評…教員の自己評価の結果の文章からは、「多忙な中では、改善ができない。」と読み取れる部分もある。

学…日々の教育実践の反省から、次回の授業の計画を全ての教科で行うには、時間が足りない部分もある。仕事量の削減も課題であるが、担任は、もっとより良い教育を目指そうとするので、なかなか「A」は付けづらい。

評…「忙しい」というのは実情だろう。「C」「D」に付いているところは、「なぜ『C』なのだろう」というところを話し合っていないと変わっていかないと変わっていかないと。

②全児童が「楽しい」と思う学校づくりについて

評…今までも「D」の数に注目して、改善して欲しいと言いつけてきたが、その点での取組は評価できる。児童アンケートの7で算数の教科を取り上げたのは、市の方針か。これからは、英語に変わるということもあるのか。

学…文科省が6年生対象に「学力学習状況調査」を、県が3・5年生を対象に「学力把握調査」を実施しているが、「思考力」を問う問題で県全体が低い値を示していることも関係があるかもしれない。また、「算数・数学」嫌いが学校嫌いの原因になっているとも言われるので、算数がクローズアップされているかもしれない。

評…児童の7の評価は、「A」が増えてきているという好結果だが、特別な指導があつてこのようになったのか。反面、自分の意見を発表する（表現する）児童があまり増えていない状況からすると、積極性に欠けるが、いかがか。

学…2年間、市の指定を受け、「言語活動を充実させる授業」について、校内研究で取り組み、表現力を豊かにする研究に取り組んできた。これからも研究していく必要がある。

評…公開授業では、ディベートなどの授業もあつたが、日常の中で発表することに意識的に取り組むことで、子ども達の力になっていくので、これからもお願いしたい。

評…アンケートの「E：無効」は、どういうことか？

学…学級担任以外の教員が回答できない場合などが「E」に当たる。児童の場合は、マークの付け忘れや機械の読み取りミスも考えられる。

評…「学校は楽しいか」の回答で「D」がなくなったのはよいことだ。さらに「C：あまりそう思わない」の子ども達が誰かわかっているのであれば、きちんとフォローして、「A」「B」で100%になるように支援して欲しい。

評…公開授業参観・講演会の講師、工藤直子さんの話は、参加型で表現力を高めるために有効であった。毎年、このような講師を呼んで、授業ができればいいと思う。

③今後の「外国語活動」の見通しについて

評…英語については、今後の見通しはどうか。

学…現在は、「外国語活動」で「教科」ではないが、平成30年度を目処に英語科として導入されるので、市教委からの指導を仰ぎながら取組を進めたい。

評…教科になったとき、評価に差が付くことが考えられる。幼児期からの環境の違いで英語力はかなり左右されるだろう。平等な教育が受けられるよう今から考えておく必要があるだろう。

評…今の子ども達の英語への慣れはどうか？

学…今の外国語活動は、表現（コミュニケーション）できる力を重視している。教科となれば、少しは、文法的な部分も学習することが出てくるかもしれない。

評…表現重視ということであれば、自己表現できないと、余計に落ち込む児童も出てくるのではないか。英語に親しむ環境にない児童をいかにフォローするか、学校体制の中で考えて行く必要がある。

評…家庭の事情により格差が生まれることが懸念される。今のうちから準備が必要だと思われる。

④PTAや地域との関わりについて

評…PTA活動に協力的で、がんばっている本校は恵まれているが、地域によっては、役員選出等でも大変なところもあるようだ。本校の様子はどうか。

学…本校は、理解があり、協力的な保護者が多い。子ども達も明るく素直である。保護者の温かい育て方が影響していると思われる。

評…子どもを強く育てることも必要だ。今の子どもは、与えられないとやらないことが多い。

学…学校だけでは限界があるので、地域で支えていただけるとありがたい。PTAを始め、おやじの会等の協力はありがたい。

評…地域人材活用という点で、最近のサマースクールは、補習のみになって、地域人材活用がないようだが、なぜか。

学…当初の目的は、補習から始まったようだが、本来の補習に立ち返ったと思われる。

評…学校からのお願いを待つだけでなく、地域の方（おやじの会）からの働きかけも必要だ。

評…昨年度、6年生が地域のことを調べて冊子を作ったような学習をこれからも続けていくとよい。その中で、地域の人材活用も図れるのではないか。また、サマースクールの取り組みで、地域人材活用をして、低学年の頃から英語の活動などの取り組みをして、学習環境を整えていくことができるのではないか。

評…道路が新しくなり、通学路の変更があったようだが、いかがか。

学…一部、通学路の変更があった。これからも、地区の話し合いの中でより安全な通学路を探っていきたい。まだ、道路が完全に仕上がっていない部分もあるので、安全に注意して指導したい。

＜学校関係者評価書＞

I 全体評価

- 1 P D C Aサイクルによる取り組みは、効果を上げていると評価できるが、教職員の自己評価で、さらに「A」が付けられるように取り組んでほしい。
- 2 これからも、教員の資質の向上とともに、児童の表現力を伸ばす指導に期待したい。
- 3 「学校は楽しい」で、「D評価」がなくなり、楽しい学校生活を送っている様子がうかがえる。
- 4 地域人材活用について、もう少し改善する余地がある。

II 特徴

- ・今回の教職員の自己評価書及び児童アンケートの結果から、全体的には改善された項目が多く、評価も「A・B」がほとんどを占め、良好な結果であったと思われる。
- ・少数ではあるが、「学校があまり楽しくない」と感じている児童がいる。
- ・授業中に質問や意見を言う児童が増えてはいるものの、市全体との比較では、まだ「A評価」の割合が少ない。

III 今後の課題として意識されたこと

- ◇「学校が楽しい」に「C」評価をした児童に対しても、フォローする体制を築いていかなければならない。
- ◇地域人材活用をさらに進めることで、学校だけでない学習環境を整備していくことが大切である。
- ◇教職員間の共通理解を図り、より充実した支援体制を築くことが必要である。

※特記事項

なし

記載責任者 敷島北小学校学校関係者評価委員 飯沼 秀司